

## 「神の島」の始まりは「屋久島を想う心」

経営者として長年冠婚葬祭業に従事してきました私が、屋久島という「神の島」に出会ったことが全ての始まりでした。屋久島の自然の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたい、屋久島に住む人たち、屋久島を訪れる人たち、屋久島という神秘的の島に関わった全ての人たちが、「幸せな人生を送って欲しい」。「人」と「島」と「自然」の全ての「幸せ」を想う、やさしい気持ちからこの商品は出来上がりました。人生最高の喜びの時と、人生最高の悲しみの場面で多くの方々に、司会者として言霊を捧げてきた私が、巡り巡って、屋久島に出逢い、その神秘的なパワーを目の当たりにし、大きく人生が変わりました。そして、この商品を通して、屋久島の偉大なパワーとそこから感じる幸福感のお裾分けができればこんなに嬉しいことはありません！

## 〈序章 屋久島との縁〉

2020年、葬儀社を経営していた私は、導かれるように、福原勝利という人間に出逢い、商売人としての才能に魅せられていた日々の中、ある日、福原から屋久島の話が聞かされました。そして、その福原が屋久島に初めて訪れたのは、2005年ごろになるそうです。なぜ、屋久島の地にという問いに関して、彼は多くを語りたがりません・・・彼の心の中には、誰にも入ることのできない屋久島への強い想いがあるのかもしれない。わかっているのは、浄土宗の僧侶である福原が、屋久島の地に、寺院を作る為に、足を踏み入れたということです。そこを紐解けば、なぜ、屋久島だったのかはわかるのかもしれませんが、多分、福原という人物を呼び寄せたこと自体が、屋久島のパワーなのではないかと感じております。その時、すでに世界自然遺産に指定されていた屋久島には、観光客が溢れかえっておりました。一方、その当時、25,000頭ほど生息すると言われる屋久鹿は、自然遺産に指定されている特定地域の自然を食い荒らし景観を失うことに加え、農林業の被害が増大するなど島にとって大変な事でした。年間に10,000頭も生まれる鹿を前に島民が駆除する数も微々たるものであるとともに、一部放置された死体が川へ流れ下り、観光客の目に留まるなど問題も発生しておりました。

人の手が加えられない森林地帯でコケや木々や葉で生息する自然そのものである屋久鹿を、食肉として提供することを願って、2007年より、屋久島内でジビエ加工センターを開業し、2019年に(株)屋久 鹿ジビエ王国を設立しました。これもすべて、僧侶である彼が屋久島という地のパワーを感じたことが全ての始まりでした。屋久島と縁を結び、20数年・・・この島と人々を愛し、ここにお寺を作りました。タンカン農園が経営に困っていると聞いたらタンカン畑を買い取り自社で農園を始めたりと屋久島の人のためにできることをしたいと考えるようになりました。そんな中、何故か、私は屋久島に呼び寄せられるように、福原から「屋久島のためにできることを一緒に手伝って欲しい」という言葉をいただきました。ずっとお世話になっていた福原の屋久島への想いを聞いた私は、共に屋久島の幸せな未来の為に屋久島を繋いでいくパートナーになったのです。

## 〈第一章 屋久島タンカンとの出会い〉

2022年、屋久鹿ジビエの事業と共に屋久島を訪れた時に、福原のタンカン畑を視察しました。屋久島の名産品である柑橘の果物「タンカン」この時に初めてタンカンの「摘果」というものがあることを知りました。摘果とは、美味しいタンカンを作るために、選定をして間引きを行うこと。この間引いた青いタンカン、若々しくとてもいい香りで、頑張ってきたのに、使われていないということでした。屋久島のたんかん農園を訪れた時に土に散乱している摘果を見つめ、初めてそのことを知った私は、このタンカンを使って屋久島の人たちの幸せに繋がっていくことをしたいと考え始めました。

屋久島には他の土地にはない「何か」不思議なチカラがある。自然や地球のリズムと共に生きる、人と動物と植物、そこでできる農作物には何か特別なチカラがきっとあるはず。「命は巡る・・・」そんなことを考えながら、このタンカン摘果を何かにできないかと日々考えるようになりました。

「そもそも、なぜ、屋久島なのか？」これだけ人を魅了するこの島の魅力は何か、「世界自然遺産」という言葉だけでは足りない、その土地に行った人にしかわからない、何か目に見えているものだけではない、地球や宇宙とのつながりを感じさせるチカラがこの島にはあると、私は屋久島を訪れるたびに気づくようになっていきました。

都会では感じることを忘れてしまっている、月の満ち欠けや、山や自然や水の流れなどにも神々のパワーが宿り、それを大切に崇め、手つかずの自然こそが、神の島と名付けられる所以ではないでしょうか・・・そんな地で育つタンカンは他のどこにもない神秘的なエネルギーをまとっているに違いない。そんな神秘の島のタンカンの木から生まれ育った実を1粒も無駄にせず、人々に届けたい。

タンカン農園に足を運び、タンカンを見ているうちに、僧侶である福原のタンカン畑には何か特別な力があるように感じていました。福原の畑は彼が僧侶だったこともあり、自身の畑の一番古い木に魂入れをしていたこともあり、この畑からは特にパワーを感じるようになりました。この畑は、いつもモッチョム岳に見守られています・・・春夏秋冬、その山の神様のパワーが注がれているのです。そして、夜には、街灯も何もない屋久島の月明かりに照らされ、このタンカンがお月様と同じエネルギーを持っているかのように見えてきました。だからこそ、自社農園のタンカンの木を御神木として祀っていきたくて考えました。

そして神の島と呼ばれる屋久島のパワーの根元ともいえる「益救神社（やくじんじや）」この、すばらしいパワーを持つ益救神社の宮司様に自社のタンカン畑の御神木をご祈祷をしてもらうことにしました。屋久島の人たちや、屋久島を訪れる人たちが、屋久島で育ったこのタンカンを通して幸せになれるよう、タンカンの御神木こそが、未来を照らす道標になると考えました。

屋久島の豊かな恩恵を、屋久島に来た人たちに持って帰ってもらいたい。屋久島に来てこのパワーを受けたことを帰ってから忘れないうで欲しい。忙しい日々の中でも、屋久島を感じて思い出すことで、毎日の足元の幸せに気づくような人生を送って欲しい。

そして神の島・屋久島の恩恵を持ち帰って思い出せるような、日常的に取り入れやすいものは何か？と考えた結果、この「神の島の御神木タンカン」をハンドクリームにすることを思いつきました。

手先は生活の中で欠かせないもの、だからこそ毎日色々なものを触ります。良いものも悪いものも毎日色々なエネルギーが手先や手のひらからたくさん入ってきています。そんな毎日働いてくれている指先や手に感謝をして大事にして欲しい、手に屋久島のパワーを与えることで、「幸せ運ぶハンドクリーム」として、日常の中でココロとカラダをリセットして幸せな時間が過ごせるようにと願うばかりです。そんな思いから、屋久島の月のパワーと神仏の力を宿した「神の島」で育った「タンカン」を使った「幸せ運ぶハンドクリーム」を作ることを決めたのです。

## 〈第二章 開発編〉

ハンドクリームにすると決めたところまではよかったけれど、実際の開発はそれはそれは大変なことでした。

全く畑違いの仕事をしてきた私は、肌につけるものがどういうものか、コスメというものはどうやって作るのかということを全く知りませんでした。

まず最初にそもそも自社農園のタンカンを持ち込んでエキスにしてくれるような工場が見つからないのです。12軒のOEM工場に問い合わせ、やっと最後の最後に自社農園のタンカンを使いコスメにしてくれる会社に出会うことができました。まさに出会いでした。諦めなくてよかったと思う瞬間でした。

次に、コスメ作りを始めて知った数多くのこと、コスメはコストを下げるために多くの化学物質が当たり前のように入っているのだということでした。

水と油を混ぜるために行う乳化のために、界面活性剤と呼ばれる肌に刺激を与えるものを入れなければならないことなど。知らないことだらけでした。

初めての試作が出来上がってきた日のこと、使ってみると、なぜか肌にしみる・・・なぜ、しみるのか不思議に思い調べてみると、化学物質がたくさん入っていることがわかりました。

それからは、何が化学成分で、何が天然由来なのか、肌の機能を損なわないで、余計なものは入れない、だけど、安心して使える良いものにしたい。そんな思いから、本業の傍で、夜な夜なコスメの成分について勉強し続ける日々が続きました。

工場の人からは、「そんなにこだわって天然成分しか入れないことになると、原価が上がってしまいます。」そう言われても、「余計なものは入れない」「タンカンの良さを活かす」そして「みんなが安心して使える自然由来の成分だけで作る」このポリシーだけは譲ることができませんでした。

香りにもこだわりました。「神の島」のパワーを最大限に引き出すこと、でも日常生活の妨げや「香害」になるようなものにはしたくない。合成香料は入れずに、タンカンだけから抽出した自然の優しい香りにしたい。そんな思いから香りの配合も考えました。

何が肌に負担をかけるもので、何を入れたら肌のためになるのか、そんなことばかり考えながら、試作を続けること8回目。ようやく納得のいくものが出来上がりました。

「神の島」の「タンカン」と屋久島の「神秘の水・屋久島天然水」、この良さを最大限に引き出すレシピが出来上がったのです。これならきっと屋久島に来た人たちに喜んでもらえるに違いない。

こうして「屋久島の地場産業の発展と屋久島の未来のためにやれることをしたい」という屋久島への強い思いから、屋久島に関わる全ての人の幸せを願った「神の島」の「幸せ運ぶハンドクリーム」が出来上がったのです。

屋久島の方々は勿論の事、屋久島を訪れていただく方々に多くの幸せが運ばれることを心から願っています！